

施策評価調書（主要施策別）

様式 1

基本目標	「強靱」な水道の構築	整理番号	1 - (2)
主要施策	耐震化の推進	施策主務課	給水課
施策の趣旨	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災では、地盤の弱い湾岸埋立地域で発生した液状化によって管路が破損し、大規模な断水が生じました。 この時の教訓を踏まえ、近い将来に発生が懸念される地震等に備えて、浄・給水場施設や水道管の耐震化を更に進めます。特に湾岸埋立地域の管路や破損した場合に地域への影響が大きい管路の耐震化を進めます。		

施策を達成するための主な取組と達成状況

	浄・給水場施設の耐震化の推進	担当課	浄水課
	(取組の概要) ポンプ棟や管の中の圧力を調整している調圧水槽、一時的に貯水し安定した給水を行うための配水池等、浄・給水場の施設について、耐震診断及び経年劣化等の状況を踏まえた耐震化を進めていきます。		
	(28 年度取組計画の概要) 浄・給水場施設の耐震化を進めていきます。 当該年度の実施内容は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏井浄水場四拓ポンプ棟耐震改修工事 (27~28 年度) ・ 成田給水場管理ポンプ棟耐震改修工事 (27~28 年度) ・ 誉田給水場 2 号配水池耐震補強工事 (27~28 年度) ・ 木下取水場樋管耐震補強工事 (26~28 年度) 		
	28 年度当初予算額 694,644 千円		決算(見込)額 527,830 千円 29 年度への繰越(見込)額 118,075 千円
取組	達成指標	浄・給水場施設の耐震施設数	内部評価
	達成目標	4 施設	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない
	達成実績	3 施設	
			前年度評価 -
	(取組の進捗状況) ・平成 28 年度に予定していた 4 施設のうち、柏井浄水場四拓ポンプ棟、誉田給水場 2 号配水池及び木下取水場樋管の 3 施設については計画どおり耐震化を完了しました。 ・成田給水場管理ポンプ棟耐震改修工事については、地質調査の結果、地耐力(地盤がどの程度の荷重に耐えられるか、また、地盤の沈下に対して抵抗力がどのくらいあるかを示す指標)が不足していることが判明し、予定していなかった基礎及び杭形状の検討が必要となったことから、平成 29 年 5 月まで工期延長しました。		
	(評価結果の説明・分析) ・耐震化が完了した施設は 4 施設中 3 施設でしたが、未完了の 1 施設についても 85%進捗していることから全体としては 96%の進捗となり、「b : 概ね達成している」と評価しました。		
	(今後の進め方) ・綿密な事前調査やこれに係る課題検討と共に、早期発注を積極的に行い、引き続き浄・給水場施設の耐震化を推進していきます。		

管路の耐震化の推進		担当課	給水課	
取組	<p>(取組の概要)</p> <p>県営水道では、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震における管路の被害状況を踏まえ、平成18年度から、管路の更新・整備については耐震継手管を全面的に採用し耐震化を推進しています。</p> <p>なお、実施に当たっては、東日本大震災の際に湾岸埋立地域で液状化が発生し、甚大な被害が生じたことを踏まえて、湾岸埋立地域の管路の耐震化を優先して進めていきます。</p> <p>ア) 湾岸埋立地域における管路の耐震化 湾岸埋立地域については、大口径管路から分岐している主要な管路等を中心に耐震化を進めていきます。</p> <p>イ) 鋳鉄管更新工事(小中口径管)に伴う管路の耐震化 災害時の広域避難場所や医療拠点等重要施設へ給水する管路、強度が低下するおそれのある管路などの更新を行い、併せて耐震化を進めていきます。</p> <p>ウ) 大口径管路更新工事に伴う管路の耐震化 耐震性の低い高級鋳鉄管を使用した大口径管路について、重要度及びバックアップの可否を評価基準とした優先順位を付けて更新を行い、併せて耐震化を進めていきます。</p> <p>エ) 基幹管路の整備に伴う管路の耐震化 成田国際空港に供給するため、新たに整備する第二北総～成田線について、耐震管を布設します。</p> <p>(本取組の内容は主要施策(1)- 「管路の更新・整備」の取組内容のうち、耐震化に係るものを再掲載したものです。)</p>			
	<p>(28年度取組計画の概要)</p> <p>管路の耐震化について、以下の工事を実施します。</p> <p>ア) 湾岸埋立地域での管路更新工事 26.2km</p> <p>イ) 鋳鉄管更新工事(小中口径管)(湾岸含む) 73.0km</p> <p>ウ) 大口径管路更新工事(湾岸含む) 1.0km</p> <p>エ) 基幹管路の整備(第二北総～成田線) 1.7km</p> <p>上記以外の管路工事 管路の更新工事(下水道や外かん事業の切廻し等) 16.4km 管路の整備工事(ニュータウン地区布設等) 17.5km</p> <p>28年度当初予算額 24,749,773千円 決算(見込)額 11,927,026千円 29年度への繰越(見込)額 6,735,952千円</p>			
	達成指標	ア) 湾岸埋立地域での管路更新延長 イ) 小中口径鋳鉄管の更新延長 ウ) 大口径管の更新延長 エ) 基幹管路の整備延長	内部評価	
	達成目標	ア) 26.2km イ) 73.0km ウ) 1.0km エ) 1.7km	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない	
	達成実績	ア) 23.5km イ) 68.1km ウ) 0.8km エ) 1.5km	前年度評価	-

(取組の進捗状況)

- ア) 湾岸埋立地域の管路更新については、道路事業者等との協議に時間を要したことで進捗に遅れが生じたため、更新延長は23.5kmとなり、目標に対する実績は89.7%となりました。
- イ) 小中口径铸铁管の更新についても、アと同様の理由で遅れが生じたため、更新延長は68.1kmとなり、目標に対する実績は93.3%となりました。
- ウ) 大口径管の更新については、入札不成立により進捗の遅れた区間があったことから、更新延長は0.8kmとなり、目標に対する実績は80.0%となりました。
- なお、入札不成立となった工事については、平成28年度中に再入札を実施し、発注済です。
- エ) 基幹管路の整備については、当局で実施可能な工事は滞りなく進捗したものの、北千葉道路建設事業の工事遅延の影響を受けたことで、整備延長は1.5kmとなり、目標に対する実績は88.2%となりました。

上記以外の管路工事について

- ・下水道や外かん事業の切廻し等に伴う管路の更新工事については、他事業者の工事の遅れの影響により、計画値16.4kmに対して、更新延長は8.1kmとなりました。
- ・ニュータウン地区布設等の管路の整備工事については、他事業者からの依頼が想定よりも少なかったことから、計画値17.5kmに対して、整備延長は9.6kmとなりました。(依頼のあった工事についてはすべて実施しました。)

(評価結果の説明・分析)

ア、イ、ウ、エの達成実績は全て80%以上であったことから、「b:概ね達成している」と評価しました。

(今後の進め方)

湾岸埋立地域及び小中口径铸铁管の更新については、道路事業者等との綿密な調整や早期発注を積極的に行い、計画的に実施していきます。

大口径管の更新については、発注時期を検討し、計画的に実施していきます。

基幹管路の整備については、当局工事と重複する北千葉道路建設工事区間(印西市若萩～成田市北須賀)が完成したため、平成29年度以降は、計画的に実施していきます。

施策の成果

成果指標	(1) 浄・給水場の耐震化率〔うち、ポンプ棟の耐震化率〕 (2) 湾岸埋立地域における管路の耐震化率 (3) 管路の耐震化率 耐震適合管含む	内部評価	
成果目標	(1) 96.7% (27年度実績 95.3%より +1.4ポイント) 〔93.0% (27年度実績 79.8%より +13.2ポイント)〕 (2) 36.9% (27年度実績 32.9%より +4.0ポイント) (3) 19.6% (27年度実績 18.4%より +1.2ポイント)	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
成果実績	(1) 96.5% (+1.2ポイント) 〔91.8% (+12.0ポイント)〕 (2) 36.5% (+3.6ポイント) (3) 19.5% (+1.1ポイント)	前年度評価	-

(施策の進捗状況)

- (1) 浄・給水場施設については、計画していた4施設のうち3施設の耐震化を完了したことから、施設全体の耐震化率は1.2ポイント上昇しました。また、施設のうちポンプ棟については、計画していた2棟のうち1棟の耐震化を完了したことから、ポンプ棟全体の耐震化率は12.0ポイント上昇しました。
- (2) 湾岸埋立地域における管路の耐震化については、道路事業者等との協議に時間を要したことにより一部区間で遅れが生じましたが、優先的に更新を進めたことから、耐震化率は3.6ポイント上昇しました。
- (3) 管路の耐震化については、入札不成立や関連工事の遅延等の理由により、進捗が遅れた区間もありましたが、全体的には概ね計画どおりに進んだことから、耐震化率は1.1ポイント上昇しました。

(評価結果の説明・分析)

主な取組と施策の成果ともに、目標に対して80%以上の実績が得られたことから、「b : 概ね成果が出ている」と評価しました。

(今後の方向性)

浄・給水場施設と管路の耐震化については、関係機関との綿密な調整や早期発注を積極的に行い、引き続き各取組を推進していきます。

施策全体としては、目標を達成できるよう各取組を計画的に実施し、耐震化を推進してまいります。

内部評価機関 (経営戦略会議) における評価	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
	(特記事項) なし